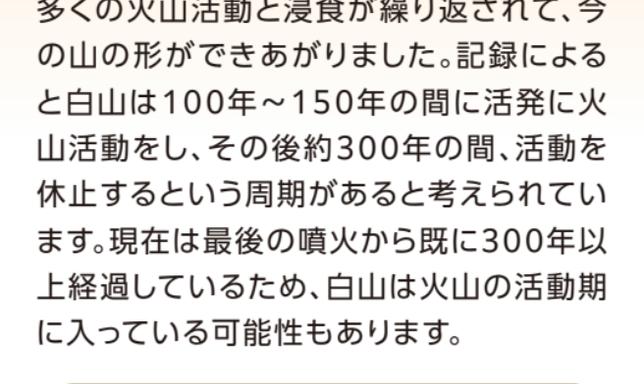




# 白山の 火山活動

## 噴火の歴史と火山地形



### 白山は生きている!白山の火山活動

#### 白山の噴火の歴史

白山は火山です。目に見えないところで今もなお活動を続けています。白山の火山活動は今から約30~40万年前に始まり、数多くの火山活動と浸食が繰り返されて、今の山の形ができあがりました。記録によると白山は100年~150年の間に活発に火山活動をし、その後約300年の間、活動を休止するという周期があると考えられています。現在は最後の噴火から既に300年以上経過しているため、白山は火山の活動期に入っている可能性もあります。

活動時期	内容
約30~40万年前	加賀室(かがむろ)火山が誕生。
約10~15万年前	古白山火山が誕生。3000m級の火山。
約2~4万年前	新白山火山が誕生。現在の山頂部の原形。
約4500年前	山頂部が東側に大崩壊。
約2900年前	崩壊した跡地に剣ヶ峰(けんがみね)が誕生。
西暦706年	白山の噴火によると思われる山火事記録。
西暦1042年	噴火により現在の翠ヶ池(みどりがいけ)が形成。
西暦1547年	噴火活動の記録あり。
西暦1554年	2年間にわたり活発な火山活動。
西暦1579年	噴火活動の記録あり。
西暦1640年	噴火活動の記録あり。
西暦1659年	白山で最も新しい噴火の記録。

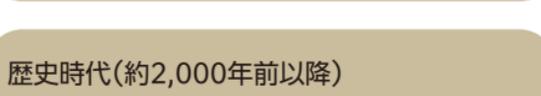
#### 御前峰と剣ヶ峰のでき方

数万年前



現在の山頂部を中心として噴火活動が始まり、成層火山(新白山火山)ができました。

約4,500年前



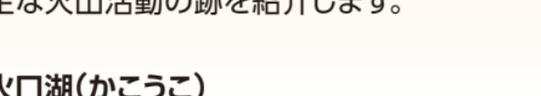
山頂部が大きく崩れました。崩壊の原因は噴火、または地震と考えられますが、よくわかっていません。

約2,900年前

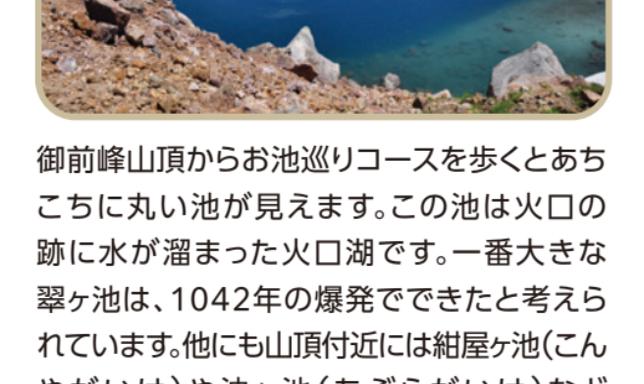


崩れた跡にできたのが、剣ヶ峰です。その時に噴出して出た溶岩は東側の岐阜県、大白山村付近まで流れています。

歴史時代(約2,000年前以降)



山頂部のへこんだ所を中心に噴火が起きました。翠ヶ池はその時の噴火によってできた火口の一つです。

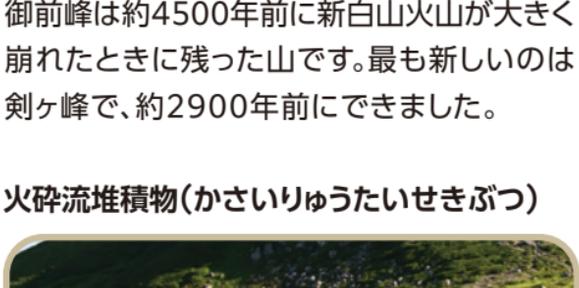


### 白山の火山活動を巡る

#### 登山中に見られる火山活動の跡

白山が火山であった痕跡は今でも見ることができます。弥陀ヶ原(みだかはら)や御前峰山頂からお池巡りコースで見ることができる主な火山活動の跡を紹介します。

#### 火口湖(かこうこ)



御前峰山頂からお池巡りコースを歩くとあちこちに丸い池が見えます。この池は火口の跡に水が溜まった火口湖です。一番大きな翠ヶ池は、1042年の爆発でできたと考えられています。他にも山頂付近には紺屋ヶ池(こんやがいけ)や油ヶ池(あぶらがいけ)など大小7つの火口湖が点在しています。

#### 白山三主峰(はくさんさんしゅほう)



御前峰の山頂からは大汝峰(おおなんじみね)、剣ヶ峰が目に見えます。この大汝峰、剣ヶ峰、そして御前峰を白山三主峰と呼びます。どの山も火山活動によりできた山です。一番古いのは大汝峰で、今から10~15万年前にできた古白山火山が浸食を受けて長い年月をかけてできあがったものです。御前峰は約4500年前に新白山火山が大きく崩れたときに残った山です。最も新しいのは剣ヶ峰で、約2900年前にできました。

#### 火砕流堆積物(かさいりゅうたいせきぶつ)



お池巡りコースを歩くと、大汝峰の麓から血の池付近にかけて、白っぽい砂や小礫(しょうれき)の間に巨岩が散在した石庭のような風景が見られます。これらの岩は火砕流堆積物と呼ばれているもので、赤熱(せきねつ)した岩塊(がんかい)や火山灰が火山ガスと共に斜面をなだれのように流れてできたものです。

#### 弥陀ヶ原(みだかはら)



室堂平(むろどうだいら)から南を眺めると、目の前に広くなだらかな斜面が室堂から弥陀ヶ原付近まで続いているのが分かります。このゆるやかな斜面は、新白山火山の噴火により溶岩が流れてできた地形です。美しい弥陀ヶ原のお花畑とともに、太古の白山の火山活動に思いをはせてみてください。

#### 黒ボコ岩



砂防新道(さぼうしんどう)と観光新道(かんこうしんどう)の合流地点に黒ボコ岩があります。この大きな岩はパン皮火山弾(ぱんがわかざんだん)と呼ばれ、火砕流によって山頂から運ばれてきたものです。付近は快適な休憩場所として多くの登山客がにぎわっています。

